

京都国際映画祭2018 特別招待作品

兄貴が帰ってきた。
とっくに忘れた「青春」と「とぼっちり」といっしょに。

兄消える

Portrait of Brothers

終着駅だから見える風景がある。

柳澤慎一 高橋長英
土屋貴子 / 金内喜久夫 たかお鷹 原康義 坂口芳貞 / 新橋耐子
雪村いづみ (特別出演) 江守徹 (特別出演)

監督：西川信廣 脚本：戌井昭人 音楽：池辺晋一郎
企画・製作：新田博邦 エグゼクティブ・プロデューサー：井上元文

撮影監督・編集：小美野昌史 助監督：平波亘 照明：淡路俊之 美術：橋本千春 仕上げ：荷田一隆 整音：松本能紀 音効：藤田昌宏
協力プロデューサー：増田徳也 メイク：渡辺祐子 スチール：谷川真紀子 衣装：深野明美 AP：春山智 協力：上田市 / 信州上田フィルムコミッション 特別協力：文学座
企画・制作：ミュージズ・プランニング 製作：「兄消える」製作委員会 配給：エレファントハウス / ミュージズ・プランニング



放蕩無頼の兄
80歳

クソ真面目な弟(独身)
76歳

往年の名作『八月の鯨』“超シニア世代の青春寓話”誕生!

近年、国外では70代夫婦のロードムービー『ロング、ロングバケーション』や、クリント・イーストウッド監督、主演最新作『運び屋』といったシニア世代を主人公にした名作が続々と制作されている。そんな中、日本から“超シニア世代”の映画が誕生した。『兄消える』。信州上田を舞台に、40年ぶりに再会した対照的な兄弟の絆を、ほろ苦い笑いと共に瑞々しく描いた“青春寓話”である。

兄、金之助を演じるのは、軽妙洒脱な演技で人気を博し、「本作を遺作にしたい」という思いで撮影に臨んだ戦後昭和を代表する、伝説の喜劇俳優、柳澤慎一(86歳)。弟、鉄男役には、俳優座養成所出身で、舞台や映画で活躍する名優、高橋長英(76歳)。ふたりの名優に挟まれながらも堂々とした存在感で魅了したのは『潜伏 SENPUKU』(2013)で第1回新人監督映画祭 主演女優賞を受賞

した土屋貴子。無邪気な明るさの中にどこか憂いを覗かせた芝居で映画に華を添えている。監督は、文学座の演出家であり、日本を代表する演劇界の重鎮、西川信廣(映画初監督/日本劇団協議会会長、日本演出家協会理事)。そして、第40回川端康成文学賞、第38回野間文芸新人賞受賞作家で、『俳優・亀岡拓次』が映画化されたことも記憶に新しい成井昭人が西川の自伝的エピソードをモチーフにオリジナル脚本を書き下ろし。音楽には、黒澤明や今村昌平を支えてきた池辺晋一郎が参加。静謐な中にも叙情性あふれるスコアがドラマを引き立てる。

かつてリリアン・ギッシュ、ベティ・デイヴィスが姉妹を演じた名作『八月の鯨』(87)を彷彿とさせる、心にしみる人生賛歌が完成した。

STORY

人生の終着点を迎えてもなお葛藤は続く——

老兄弟の胸中に蘇る「故郷」や「家族」への思い

町工場を細々と続け、100歳で亡くなった父親の葬式を終えたばかりの76歳の真面目な独身、鉄男のもとに、40年前に家を飛び出した80歳の兄・金之助がワケあり風の若い女、樹里を連れて突然舞い戻ってきた。その日以来、奇妙な共同生活を始める3人。やがて金之助の過去や樹里の素性が明らかとなる中、兄と弟それぞれの胸中に静かな確執とともに「故郷」や「家族」への思いが蘇っていく——。



撮影地：長野県 上田市

エンディング曲「私の孤独」
歌：元次郎

5月25日(土)から
ロードショー

★初日舞台挨拶を予定
(詳細は劇場または公式サイトまで)
特別前売鑑賞券 ¥1,400
発売中



渋谷・Bunkamura 前交差点左折

ユーロスペース

EUROSPACE

TEL.03-3461-0211
www.eurospace.co.jp